

登録コード	UAC35500	開講年度	2026				
授業題目	中国語学研究					担当教員	伊藤 加奈子
						副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・3時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					中国言語文化に対する素養と理解を持ち、中国語学に関する問題を確かな根拠を以て客観的に究明し、独自の考えを構築することができる能力を有する。	
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					中国語の言語資料を収集・調査し、分析・考察することができる手法を身に付け、他領域の解析手法も習得することで、より多角的に検討することができる応用力をも身に付ける。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					中国語と日本語両言語の運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、言語に関する諸現象を捉え、新たな視野で分析を試みる力を有する。	
(2)授業の概要	最初に受講生と授業で取り上げる中国語学的トピックについて話し合い、調査する為の指導をしつつ、受講生本人からのアイディアは勿論、教員からの分析視点を加え討論することで、最終的に語学の興味ある具体的な問題についてレポートの形にまとめあげます。						
(3)授業計画	初回授業はガイダンスと受講生各自の中国語学的トピックの選定、以降は簡単なレジュメ資料を作成して授業時に考察検討を加えてゆく形で進めていきます。 第1回：ガイダンス、中国語学的トピックの選定 第2回：中国語の主語・主題について受講者による問題説明 （これは一例であり、実際には受講生各自が興味を持つ語学的トピックを選定。以下同じ） 第3回：中国語の目的語前置現象の関係論文紹介1 第4回：中国語の目的語前置現象の関係論文紹介2 第5回：受講生自身が収集した目的語前置現象の資料例文発表 第6回：受講生自身が収集した資料例文の検討分析 第7回：中間のまとめ 第8回：中国語学習者が目的語前置現象を学習する上の問題1 第9回：中国語学習者が目的語前置現象を学習する上の問題2 第10回：日中対照の視点からの検討分析1 第11回：日中対照の視点からの検討分析2 第12回：目的語前置現象の特徴抽出1 第13回：目的語前置現象の特徴抽出2 第14回：中国語における目的語前置現象の位置付け 第15回：授業のまとめ 期末試験は実施しない。						
(4)成績評価の方法	学生の準備資料・授業での分析検討内容（5割）と、期末レポート（5割）で評価します。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	・卓越している＝中国語学のトピックを自ら選定し、それに関係する言語資料を収集し、精密に分析検討を重ね、独自の見方を提示して更なる語学的問題として発展させることができる。 ・かなり上にある＝中国語学のトピックを自ら選定し、それに関係する言語資料を収集し、精密に分析検討を重ね、独自の見方を提示することができる。 ・やや上にある＝中国語学のトピックを自ら選定し、それに関係する言語資料を収集し、精密に分析することができる。 ・その水準にある＝中国語学のトピックを自ら選定し、それに関係する言語資料を収集し、ある程度分析することができる。						
(6)事前事後学習の内容	最初に自分が取り組む中国語学のトピックについて、具体的な例を挙げられるよう準備をすること。具体例を見つけたら、それと同様な現象を示す例と、更に範囲を広げて関連する例も搜索すること。様々な例文について考察検討した後、そのプロセスと結論を分かりやすい文章でまとめること。						
(7)履修上の注意	履修者は基本的に中国語学専攻の学生に限ります。						
(8)質問、相談への対応	毎週火曜日12：10～13：00のオフィスアワーには人文学部棟3階の研究室にいます。その他の日時でも、授業以外の研究室にいる時には対応できますので、気軽にメールで問い合わせてください。伊藤の授業担当時限は人文学部・人文科学研究科・共通教育シラバスにて確認してください。メールアドレス：itokana@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。						
【参考書】	『現代中国語のシンタクス 記述言語学者自選集1』杉村博文、日中言語文化出版社						